

樹液を吸汁するシンジュキノカワガ成虫

長田 庸平

546-0034 大阪府大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館

Adults of the ailanthus defoliator, *Eligma narcissus narcissus* (Cramer) (Nolidae) sucking the sap

Yohei OSADA

Japan Heterocerists' J. 314: 407-408. June 2025.



Figs 1–4. *Eligma narcissus* (Cramer). 1–2. An adult sucking sap of *Ailanthus altissima* with *Lycorma delicatula*. 3. An adult sucking sap of *Melia azedarach* with *Lycorma delicatula*. 4 Two adults sucking sap of *Ailanthus altissima*.

コブガ科の *Eligma narcissus narcissus* (Cramer, 1775) シンジュキノカワガは近年日本国内で多数発生し、大阪府でも 2023 年～ 2024 年に各地で発生が記録された (長田, 2024; 長田・山内, 2024).

筆者は 2024 年の秋に、大阪府大阪市の長居公園で *Ailanthus altissima* (Mill.) Swingle ニワウルシ (ニガキ科) や *Melia azedarach* L. センダン (センダン科) の樹液を吸汁する本種の成虫を複数確認した。長居公園では外来種の *Lycorma delicatula* (White, 1845) シタバニハゴロモ (カメムシ目, ピワハゴロモ科) が 2024 年から発生が確認されている (長田, 2025)。シタバニハゴロモの寄主であるニワウルシやセンダンには多数の個体が吸汁に集まっており、それらに混じってシンジュキノカワガ成虫が吸汁しているところを確認した。

成虫の摂餌行動については、飼育下で砂糖水を吸った記録があるほか (宮田, 1986)、近年はカルピスに蜂蜜

と塩を加えて水で薄めたもの、熟したパイナップル、甘柿を吸汁した報告がある (高橋, 2024)。しかし、野外における成虫の摂餌行動に関する知見はほとんど確認できなかった。生態的な知見として以下のとおりに記録を残しておきたい。

シンジュキノカワガやシタバニハゴロモの吸汁行動に関して助言をくださった富沢章氏にお礼申し上げる。

Eligma narcissus narcissus (Cramer, 1775)

シンジュキノカワガ

※記録地は全て、「大阪府大阪市東住吉区長居公園」である。

2 exs, 14. X. 2024, 長田庸平撮影, ニワウルシで吸汁 (Figs 1-2). 1 ex., 16. X. 2024, 長田庸平撮影, センダンで吸汁 (Fig. 3). 2 exs, 16. X. 2024, 長田庸平撮影, ニワウルシで吸汁 (Fig. 4).

引用文献

- 宮田 彬, 1986. 日本の昆虫4 シンジュキノカワガ. 116 pp. 文一総合出版, 東京.
- 長田庸平, 2024. 大阪府の都市公園でシンジュキノカワガが発生. 誘蛾燈 255: 6-7.
- 長田庸平, 2025. 長居公園でシタバニハゴロモが発生. *Nature Study* 71 (2): 10.
- 長田庸平・山内悠司, 2024. 大阪府におけるシンジュキノカワガの発生記録(2024年). 南大阪の昆虫 25 (4): 64-65.
- 高橋弘樹, 2024. 兵庫県とその周辺で得られたシンジュ

キノカワガの記録と知見—2023年の大発生, 周年経過, 成虫の行動など—. きべりはむし 47 (1): 5-19.

Summary In 2024, it was observed that adults of *Ailanthus defoliator*, *Eligma narcissus narcissus* (Cramer) (Nolidae) sucked the sap with the spotted lanternfly, *Lycorma delicatula* (Fulgoridae). They were sucking sap of *Ailanthus altissima* (Mill.) Swingle (Simaroubaceae) and *Melia azedarach* L. (Meliaceae). Notes on feeding behavior of the adult of the moth is very few in field observation.

チャバネシロホシクロヨトウを西表島で採集

阪本 優介

252-0001 神奈川県座間市相模が丘 1-27-22-1201

A record of *Condica albigutta* (Wileman) (Noctuidae) from Iriomote-jima Is., the Ryukyus

Yusuke SAKAMOTO

Japan Heterocerists' J. 314: 408. June 2025.



Fig. 1. *Condica albigutta* (Wileman), female.

筆者は西表島で, 記録の少ないチャバネシロホシクロヨトウを採集しているのでここに報告する.

Condica albigutta (Wileman, 1912)

チャバネシロホシクロヨトウ

沖縄県八重山郡竹富町上原 1♀, 27. IX. 2024. 阪本採集・保管 (Fig. 1).

本種は国外ではインド, 中国, 台湾, スマトラ, ボルネオなど広域に分布するヤガ科の蛾で (Holloway, 1989), 日本からは西表島で2例の記録 (杉, 1990; 水野, 1990) があるのみで, それ以降報告がなかった. 水野 (1990) の採集は1981年であり, 今回のものは43年ぶりの記録である.

同定は斑紋で容易であるが, *Condica*属は外見のよく似た種が多く, 特に西表島では*Condica illecta* (Walker, 1865) オオホシミミヨトウが多産するため, 鮮度の悪

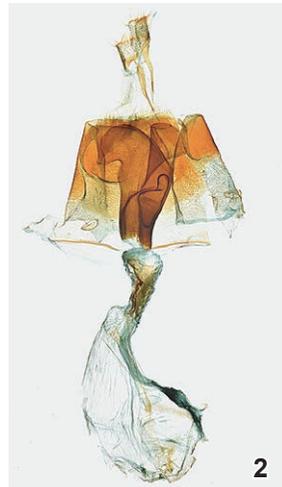


Fig. 2. *Condica albigutta* (Wileman), female genitalia.

い個体は交尾器による同定が必要であろう. Holloway (1989) には♂の交尾器が図示されているが, ♀の交尾器はないため, ここに図示しておく (Fig. 2).

引用文献

- Holloway, J.D., 1989. The moths of Borneo, Part 12. *Malay. Nat. J.* 43: 57-226, 404 figs, 8 color pls.
- 水野利彦, 1990. 西表島の蛾. 蛾類通信 158: 138-139.
- 杉 繁郎, 1990. セプトシロホシクロヨトウと日本未記録の一近縁種について. 蛾類通信 158: 136-137.